

意見書

令和 2 年 1 1 月 2 日

三種町教育委員会
教育長 鎌田義人 様

三種町小・中学校の在り方検討懇談会
会長 長 浜 中

1 はじめに

本町においては、平成 19 年度に三種町学校再編検討委員会より出された「三種町立学校の再編整備について」の提言内容を踏まえ、「三種町立学校の再編整備計画」が策定され、教育環境等の整備が図られてきた。

令和元年度には、学校小規模化等が進む小・中学校の再編について、教育委員会及び総合教育会議において、園児や児童生徒の保護者を対象とした小・中学校の在り方等に関するアンケート調査を実施し、今後の児童生徒数や町の財政事情、複式学級等教育の質、国が進める教育改革や働き方改革への対応等を基に、望ましい教育環境を確保するためにどのようにあるべきか協議し、「三種町立小・中学校再編の方向性について」を決定した。

本懇談会は、昨年度に決定した方向性を受け、三種町教育委員会教育長から、児童生徒の教育の機会均等、教育水準の向上のために望ましい教育環境を確保するためにはどのようにあるべきか検討するよう依頼された。

会議では、学校再編の方向性の内容を確認した上で、本町小・中学校の在るべき姿について、地域と一体となった学校の在り方等を含めて、地域住民からの要望、複式学級の解消、通学方法や所要時間、施設状況等を基準として、多面的・多角的に検討を行った。

話し合いは、琴丘・山本・八竜地域に分かれた各分会で意見を出し合い、全体会で集約をしていく方法で行い、その中で様々な意見が出された。教育環境の課題として、人間関係の固定化の不安や、学校行事、スポーツ活動等が制限される等、子どもたちに選択する機会が少ないことなどが挙げられた。一方、まちづくり政策と連携した計画策定を望む声や、子どもたちが住み暮らしている地域とのつながりや文化の継承についての不安、遠距離通学の課題など多くの意見があり、結論を導くのは大変難しい作業であったが、三種町の将来を担う子どもたちの教育環境を第一に考えて学校の再編を進めて欲しいという意見や、行政より具体的な計画を示して欲しいとの意見が大勢であったことから、これらの意見を集約し、本懇談会として次のとおり提言する。

2 提 言

- (1) 小学校については、地域で育ち、ふるさとを愛する心を醸成できる環境が必要である。そのためには、学校と地域との密接な連携協力や、幼・保・小の連携が大切である。また、通学所要時間は、1時間を超えることがないよう配慮して、旧3町の地域ごとに1校に再編することが望ましい。
- (2) 中学校については、社会性を身に付けることが必要になるため、ある程度の集団での教育が望ましいことや、学校生活における部活動の占める割合も大きいことなどを考慮しながら、新校舎の建築等を含めた町1校化を早急に検討すべきである。
- (3) 児童生徒数の更なる減少に伴う複式学級や部活動等の諸課題及び校舎の老朽化に伴う学校管理運営経費の増加や校舎の安全性、教育環境整備等の課題や、新型コロナウイルス感染症で人と人との距離の確保が求められていること等を十分考慮しながら教育環境の充実に努めるべきである。

再編についての方向性は次のとおりである。

- (1) 令和3年度～令和7年度まで
 - ① 下岩川小学校は、複式学級があることから、住民説明など準備期間を経て、令和4年4月を目標として森岳小学校への再編を検討する。
 - ② 金岡小学校は、令和7年度に複式学級が発生することが予想されるため、山本地域での1校化を検討する。
 - ③ 中学校は、生徒数の更なる減少に伴う課題及び校舎の老朽化、町の財政状況を考え、令和7年度までに中学校校舎を完成させ、令和8年度の開校を目標に町1校の再編を検討する。
- (2) 令和8年度～令和12年度まで
浜口小学校が令和8年度に、湖北小学校は令和9年度に複式学級が発生することが予想されるため、八竜地域の1校化を検討する。
- (3) 令和13年度以降
児童生徒数の減少等、教育環境の変化に注視しながら、小学校の町1校化及び中学校との併設等の施設利用も含めた教育環境の在り方について検討を続ける。

再編により、次のことが教育上の効果として期待できる。

- (1) 学級の人数が増えることにより、グループ学習や体育のボールゲーム、音楽での合奏・合唱など学習の多様化が可能となる。
- (2) 児童生徒数が増加することにより、多様な考え方に触れる機会が多くなる。中学校では、クラス替えができるようになることや部活数が増加して活気ある活動が期待できる。さらに、それぞれの学年に複数の教員配置が可能になり、学年運営や教材研究等における教員の力量向上が図られ、充実した学習指導が期待できる。
- (3) 教育予算の集中化が可能となり、教育環境の充実が期待できる。
- (4) 文化的につながりの深い旧3町での再編により、伝統行事等に他地区の子どもたちが参加し触れる機会が広がることで、学習機会の広がり地域とのつながりを深めることができる。

再編の際には次のことに配慮していただきたい。

- (1) 再編となる学校において、子どもたちは人間関係や学習環境が大きく変わることになるため、事前の交流活動や再編後のきめ細かな指導が行えるよう配慮すること。
- (2) 地域と密接な関係の中で行われている、特色ある教育活動を継承できるよう配慮すること。
- (3) 遠距離通学となる子どもたちの負担を考慮し、適切な通学支援を検討すること。
- (4) 学校は地域コミュニティの中心的役割を担ってきた。学校再編後の跡地等の利活用方法について、地域住民と共に検討すること。
- (5) 再編に当たっての具体的な内容については、早急に学校再編計画等を策定するとともに、地域住民との情報交換や説明等に努めること。

3 おわりに

本懇談会は、児童生徒数の減少による学校の小規模化や校舎の老朽化など、町内小・中学校の現状を認識することから始め、教育効果や地域と学校の関連性等の諸課題について討論し、子どもたちにとってよりよい教育環境となるにはどのようにしたらよいかを活発な協議の中から意見書としてまとめた。

再編後の学校においては、総合的な学習の時間や学校行事、地域行事等を通して地域に学び、地域の人々と触れ合うことの中から、ふるさとへの愛着を育てる教育を更に充実させるとともに、社会情勢を見据え、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指してグローバルな人材育成を重点として推進していただきたい。また、文部科学省が提唱するGIGAスクール構想（※1）等を軸とした情報通信技術を活用した学習を積極的に展開していくなど、これからの時代にあった教育を推進し、教育環境の充実に努めていただきたい。

最後に、予測のつかない未来に向かい、未来を切り開く力を持った三種町の将来を担う子どもの姿を最優先事項として、学校や家庭、地域と連携しながら、よりよい教育環境の整備を進め、三種町の教育が更に発展することを期待するものである。

※1 GIGAスクール構想

児童生徒への1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想。